平成 22 年度 第 3 回 石狩市社会教育委員の会議 議事録

(要点筆記)

日 時 平成 23 年 2 月 25 日 (金) 午後 1 時 30 分 ~ 3 時 50 分

会 場 石狩市公民館第 1 研修室

出席者 委員長：徳田昌生 副委員長：村中誠治

委員：岩田博明、加藤忠廣、山根利子、古村えり子、碓山恵子、伊井義人、畑中純子

事務局 生涯学習部：部長 三国義達

社会教育課(兼公民館)：課長 東 信也、主査 板谷英郁、主任(兼社会教育主事)松永 実

保健福祉部：健康推進室スポーツ健康課 主任 佐藤政喜

会議内容

1 樋口教育長あいさつ

年度末近くのお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。平成 22 年度におきましては、通常の会議に加えまして、社会教育の方向性をご議論いただくために、意見交換会や教育委員との懇談会を開催させていただき、ありがとうございました。平成 23 年度予算案については、来週から 3 月の定例議会が始まり、その中で審議いただくことになっております。本委員会からご提言いただいた内容につきましては、当初予算の段階での予算化は難しい状況ですが、6 月議会の補正予算の中で政策予算として計上したいと考えているところで、寺子屋事業につきましては、そのような予定で事務局共々努力していきたいと考えております。

社会教育を取り巻く状況については、何度かお話をさせていただきましたが、昨今、社会教育主事が減少傾向にある、あるいは社会教育施設も少なくなっているという状況にあることに加え、法体系の部分で一般行政部局との関係、取扱いが非常に緩やかになっており、特に文化・スポーツの分野においては、市長部局で行うことができるように改正されております。北海道においても、去年の暮れに文化行政を知事部局において執行するという方向性が出されております。本市におきましても、スポーツの業務を市長部局で健康づくりと一体として行っており、社会教育行政という分野がボーダーレスになってきていると感じています。

この 4 月から、小学校において新学習指導要領がスタートいたします。学校教育と社会教育の違いは何だろうかと考えたときに、学校教育においては、学習指導要領という一つの枠組みの中で学校がそれぞれ教えていく状況ですが、社会教育については、この基本的な枠組みが無く、公民館や図書館、博物館などの個別法の中でそれぞれ一定の役割ということですが、社会教育全般を考えると、時代の要請やそれぞれの市町村が抱えている課題を抜き出しながら行っていくことが求められており、この部分が学校教育との一番の違いではないかと思っております。社会教育行政において、本市が抱えている課題といたしまして、今年度は家庭教育、あるいは地域教育という視点で議論いただいたところですが、新年度につきましては、さらに新しい分野でのご検討についても是非お願いしたいと思っております。

本日は、平成 22 年度の事業実績、平成 23 年度の予算関係も含めた事業の内容等についてご議論いただきたいと思いますと考えております。どうか現在の社会教育が、より石狩の時代感覚に沿った視点の中で、それぞれご議論いただければ幸いですと思っております。

2 徳田委員長あいさつ

今日は、本年度最後の社会教育委員の会議ですが、昨年 8 月と 9 月に開催した意見交換会と、

12月の教育委員との意見交換会では、皆さんから貴重なご意見をいただきまして誠にありがとうございました。今年度は「家庭教育・地域教育の充実」と「芸術文化の振興」の2点について検討しようということで進めてきました。前者については様々なご意見をいただき提言書というかたちで出ささせていただくことができました。後者については芸術文化振興奨励補助金に関してご意見をいただいていたが、芸術文化の振興という点で具体的にご意見をいただいていたいないので、今後検討すべき事項であると考えています。

一昨日、いしかり市民カレッジの二周年記念の事業があり、学長である田岡市長から「これまでの石狩、これからの石狩」と題して講演していただきました。縄文時代の紅葉山49号遺跡の話から現在、新港地域に建設中のデータセンター、こども未来館、新港地域の特区やふるさとの森構想などの話などについて、私達が夢を持てるような将来的な話について語っていただきました。しかし一方では厳しい面もあるようで、現在の市の人口が59,443人に対して25年後には50,132人、約9,300人減少するという事です。一方、15歳未満の子ども人口については、平成22年度の8,182人から4,628人になり、現在の約57%までに減少し、65歳以上の高齢化率も現在の22.5%から37.9%になるということでした。人口が減り、子どもの数も減って、高齢者が増えるということになりますと財政的にも大変になり、税収等にも影響が出てくるというお話でした。それらの問題をクリアしていくための一つの方法が「市民協働」であり、行政が行政だけで事を進めていくのが非常に難しくなってくる。そこで市民の考えを入れて市民の力、人材を活用して進めなければ少子高齢化社会に対応できなくなると思っていて、そのことが一つのキーワードとして、市長からお話がありました。このようなことを考えますと、社会教育委員というのは地域の意見や家庭の問題を吸い上げて、委員が考え行動するような役割が要求されているかと思っていますが、そういう点で将来を考えると、ますます社会教育委員の役割が重要になるのではないかと考えています。そういうことで今後も委員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

【事務連絡1】

・東社会教育課長（兼公民館長）より、2月1日付人事異動に伴う着任あいさつ

【事務連絡2】

・東社会教育課長より会議案内の文書中に、議事案件「石狩市芸術文化振興奨励補助金のあり方について」としてご案内し、協議していただく予定だったが、資料調製等の都合により議事を取り下げるということについてお詫び

3 報告

(1) 地域生涯学習活動実践交流セミナー（H23.2.23～24）・・・村中副委員長

「変革の時代における社会教育行政の役割～地域の教育力向上のための方策～」というテーマで、2日間の日程で基調講演やリレートーク、分科会などに参加してきました。自治体では財政難、人口減、少子高齢化の三重苦の中で、いかに活力ある地域づくりを実践していくかが大きな課題になっていることや、地域の教育力に関するアンケート結果で「教育力が低下していると感じている」という回答が6割以上いる実態の中で、学校の空き教室を活用した取組事例など大変参考になりました。宇都宮大学の廣瀬教授の講演では、社会教育の実際の目的は大人の教育であり、地域住民の自己教育力がついてくれば子どもも成長していくという流れが地域の教育力であること、高齢者と子ども達の交流、ふれあう機会を増やすこと、市民講座に参加・参画していることだけでも成果であり地域の教育力向上につながっていて、参加者に対して何かをやってもらうように要請したりする必要はない。ボランティアは自らが取り組むこと、

あくまでも主体性が大事であることなど、話されてきました。全体の感想として、石狩市はいろいろな市民活動が活発に展開されていて、市外に発信できる、地域の課題に向かって取り組むボランティア活動がたくさん行われていることを実感しました。

【質疑応答】

なし

(2) 平成22年度社会教育事業実施報告・・・板谷主査より説明

別添資料「平成22年度事業実施報告(主催事業、各種会議、研修等)」参照

【質疑応答】

古村委員 : カローリングについて教えてください。

佐藤主任 : 誰でも気軽に楽しめるニュースポーツで、氷上のスポーツのカーリングを室内でできるように道具が改良されています。体育指導委員を中心に年間4~5回の講習会と大会を開いています。

徳田委員長 : 資料3ページの情操教育関係の事業は非常に良い取り組みだと思います。あい風コンサートは小規模の小学校を対象に開催されていますが、演奏者はどのように決められているのでしょうか。

板谷主査 : 当課で定期的に行っている市役所ロビーコンサートに出演された方に、子ども達を対象にした曲やプログラムにアレンジできるかどうかを相談して、学校出前という形で出演をお願いしているケースがあります。もう一つは、市内外で音楽活動をされている方から当課に照会があって、内容や予算などの条件が合う演奏者については、プログラムメニューの一つとして各学校に紹介して、リクエストがあった出演者と日程調整をして開催しています。

徳田委員長 : 開催経費はどのくらいですか。

板谷主査 : 1校あたり約3万円の予算で開催しています。

徳田委員長 : 出演者についてですが、例えば道教育大学岩見沢校など音楽関係のコースの学生に出演してもらう機会を設けたりすれば、学生にとって良い経験、発表の機会になると思いますが。

板谷主査 : 「パーカッションとピアノのアンサンブル」については、札幌大谷大学の学生OGのグループに演奏していただいています。

徳田委員長 : 将来的にさらに継続する、あるいは校数を増やすなどの考えは。

東課長 : 昨年度までの「学校出前ミニコンサート」から「あい風コンサート」に名称を改め、今年度は保護者や地域の方にも来ていただいて、音楽の生演奏の鑑賞機会を提供しています。特に、厚田・浜益の子ども達や保護者には好評をいただいているので継続していきたいと考えています。

徳田委員長 : 個人的にはさらに継続、充実して開催していただきたいと思います。ほかにご意見などありませんか。

村中副委員長 : 資料にありませんが、学校支援地域本部事業が今年度で終了することになっていたと思います。事業の成果や総括などはどのようになっていますか。

東課長 : 今年度は花川北中学校区(双葉小学校、紅南小学校、花川北中学校)において、国の委託事業の最終年度3年目として事業を行ってきました。新年度からは委託事業から補助事業に替わることになっています。これまで学校側から「とても助かっている」という声や、地域のボランティアの方々から「やってよかった」という達成感を持つことができたというような声をいただくなど、非常に

優れた取組であったと考えています。

徳田委員長 : 地域の住民が学校の活動をバックアップするという事業ですし、次年度の第1回の会議の時期までには報告書が出来ているかと思しますので、その報告書をもって総括していただくのもよいかもかもしれませんね。

4 議事

(1) 平成23年度主要施策報告・・・板谷主査より説明

別添資料「平成23年度 主要な社会教育事業の概要」参照

【質疑応答】

徳田委員長 : 資料3ページの資料館管理運営事業のところ、展示室の改修等を予定しているということでしたが、どの資料館を整備するのですか。

三国部長 : 厚田は今年度リニューアルされました。今回は砂丘の風資料館は展示物が相当増えているので入れ替えも含めたリニューアルをしたいと考えております。お配りしている平成23年度社会教育関係予算案については教育委員会所管以外の部署も含め、また教育委員会全体の予算から部分的に抜き出しているというような特異な形で出しておりますが、新年度の教育費全体の予算ということになると、骨格予算とは申しまして前年度比40%増となっております。主なものとしては学校の耐震補強の工事関連の予算で、特に花川地区は同じ時期に建てていることから一気に老朽化している状況で、耐震工事に合わせた大規模の補修工事と、石狩サービスという集中暖房の会社が閉鎖することに伴う暖房機器の切り替えも必要になるという状況です。そのほか社会教育関連で、新年度から旧紅葉山小学校の跡利用施設として学び交流センターがオープンすることなども含めると、教育費としてはかつてないような大幅な予算増になっています。社会教育関連予算のポイントとしては、情操教育事業の中に美術の分野を新たに加えたり、公民館やカルチャーセンター、学び交流センターなどの生涯学習の拠点を充実させたりというような方向性で新年度を迎えたいと考えております。

伊井委員 : 今回いただいた資料のほかに、各事業の相関関係や全体像が一目でわかるような資料はありますか。

三国部長 : 例えば子どもに関連する所管を例に申し上げますと、本市の場合は教育委員会とは別に、保健福祉部にこども室という部署を設けたり、スポーツも健康推進とリンクさせた部署を設けたりしているほかに、NPOも含めた各種団体が盛んに活動されている状況などから、現状で一番分かりやすいのは、こども室で作っている「いしかり子育てガイドブック」ではないかと思えます。行政とNPOという縦割りではなく各種サービスを体系化した内容になっています。

伊井委員 : 資料3ページの「次代を担う子どもたちの健やかな育ちの支援」のところ記載されている「地域プレーリーダー」「ジュニアリーダー養成」「子ども参加プロジェクト事業」の関連性などについて教えていただければと思います。

三国部長 : こども室が中心となって行っている事業ですが、青少年を育成するリーダーを子どもの中から生み出していくことを目的として、子ども会や藤女子大学などの大学生サークルのセツルメントと連携して地域リーダーを育成しているところです。リーダー養成の研修と認証の制度は子ども会と連携して作っていますし、地域プレーリーダーの事業実施はセツルメントが中心になって実践して

います。子ども参加プロジェクト事業について、背景にあるのは子どもの権利の意見表明権の具現化で、例えば小中学校と高校も含めた各学校の生徒会が連携した会議が無いので、まず中学校と高校の生徒会が集まる取組として、こども未来館の愛称を募集したり、こども未来館の運営委員会に子どもの会議を設置したりといった動きになってきています。そのような中で教育委員会として期待しているのは、例えば成人式の運営で、従来、実行委員会的な組織として担っていた青年会のメンバーが少なくなって行政主導の運営のままになっている状況なので、彼らが数年後にOB会のような形で集まって成人式の企画運営に参加してもらうことです。

伊井委員 : 詳しく説明していただきありがとうございます。先程の子育てガイドブックに関連してですが、このような資料を利用する側の立場で、例えば子ども達がこれをやりたい、参加したいと思った時に、ぱっと一目で分かるようなものがあればと感じました。

古村委員 : 子どもが自分達で色々な活動をする拠点として、こども未来館に行けば石狩市全体の子どもの活動が見えてくるというような、要の場所になるというふうに考えていいでしょうか。

三国部長 : 現実には、子どもが自力で移動して常に来られる場所となると、近場でないと無理ですので、市内1ヶ所ではどうしても厳しいですが、そのモデルとしてきっかけづくりをしたいと考えています。

徳田委員長 : 学び交流センターについてですが、先日の見学会の時に駐車場が狭く、全く駐車できなくて大変困りました。今後4~50名程度のイベントを行うことを考えたときに冬期間はほとんど利用できないのではということを感じました。何か対策を考えていただきたいと思います。

東課長 : ご指摘のとおりだと認識しております。現状としてはグラウンド側のスペースを使うこと以外には考えにくい状況ですので、新年度の後期までに対策を講じたいと考えています。定期利用の団体・サークル等も含めて、できるだけ多くの方に利用してもらえ、利用しやすい施設となるようにしていきたいと考えております。

岩田委員 : 平成23年度の情操教育プログラムについて、「美術館へ行こう」の対象が中学1年生となっていますが、今のところ市内で何校ぐらいが参加できる状況か教えていただきたいと思います。

板谷主査 : 先日、各学校に意向アンケートの依頼をさせていただいており、希望する学校は全て参加できる予算措置をしています。何校が参加するかは回答待ちの状況です。

岩田委員 : 「The music」について、今年度は石狩中学校で開催されていますが、新年度はまた別の学校1校で開催するということですか。

板谷主査 : はい。今のところ1校分の予算になっています。試行事業という形で開催しており、これまでは学校から会場へスクールバスで来てもらっていますが、授業時数の確保などで難しくなっているということもありますので、会場を学校にするかどうか、また仮に学校で行う場合に対象学年や学校数を広げることなども含めてどういう形がいいのか検証しているところです。

岩田委員 : 「あい風コンサート」については、厚田・浜益などの小規模の小学校で開催していますが、中学校も一緒に参加は可能でしょうか。

- 東課長 : はい。日程と開催場所について学校間で調整が整えば可能ですので、ご相談いただければ当方で対応させていただきたいと思います。
- 徳田委員長 : 今、委員の皆様には先ほど三国部長がお話していた「子育てガイドブック」が配られていますが、サービスを利用する場合はこの資料を見るといいのでしょうか。B4くらいの大きさで全体像が一目でわかるものがあると先ほどの伊井委員のご要望に応えられるのかなと思います。
- 古村委員 : 子供が見てわかるようなものがあるといいかなと思います。
- 徳田委員長 : それでは、23年度の社会教育事業についてはよろしいでしょうか。ありがとうございます。

5 その他

(1) 石狩市の社会教育の推進に関する提言(その1)の対応について

- 三国部長 : 先日いただきました提言につきまして、今は未だ当初予算には計上されていませんが、それに関連して、本日お配りした調査結果をまずご説明させていただきたいと思います。「平成22年度全国学力・学習状況調査の分析結果」の方は、小学6年生と中学3年生、「平成22年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」は小学5年生と中学2年生が対象です。この会議にお示ししたのは、学力や体力の結果をお話しようと思ったわけではなく、児童・生徒に向けた質問の結果から基本的な生活習慣について見えてくるものがあると思ったからです。学力の方では、小学校では朝食を食べる割合が全国よりも北海道が低く、それよりも石狩市が低いという結果が出ています。家庭学習も同じ傾向で、それに対してテレビやDVD、ゲームの時間は長い。読書も同じかやや長いようです。こういったことから浮かび上がってくるのは、一人で家にいる時間が長いのではないかということで、それは、冬のせいや市街地から離れていることが原因かもしれません。体力の方では、小学校5年生の女子は昨年よりも朝食の摂取割合が低く、睡眠時間が短く、テレビの視聴時間が長いという傾向が進んでいます。運動について、女子は好きという人、得意という人が少ない。学力調査とあわせると家にいて運動もしないという人が多いということが分かります。中学校も小学校と同じ結果が出ています。運動しないせいか体格はよく、握力やボール投げといった筋力を使うものの能力は高く、反復横飛びやシャトルランのような俊敏性を競うものは苦手という傾向が表れています。学力も運動も家庭での生活習慣が影響しているだろうと推測します。何故こういうお話をさせていただいたかと言いますと、「社会教育の推進に関する提言」で家庭での生活習慣・教育を含めて寺子屋というアイデアをいただきましたので、市長選挙後の補正予算の中で具現化することを検討しているところからです。特に花川地区については、村中副委員長からご質問のあった学校支援地域本部制度を使って実施することを考えていて、地域ボランティアを活用するということでは、寺子屋で勉強以外のことでも関わっていただくような組み立てをして、これまで家でしてきたことを学校でできるようにしたいと思います。今日はちょうど加藤委員がいらっしゃっていますが、昨日市P連の役員会に出席させていただきました。子供たちの生活習慣に関して、教育委員会だけではなく、一緒に何かしませんかと投げかけさせていただき、子供たちと早寝早起き朝ごはんに関するカルタを作り、PTAのレクリエーションで使って

いただくことを了解いただきましたので、補正予算の中で対応していきたいと考えています。早寝早起き朝ごはんは、全市的なムーブメントにしないとなかなか広まっていかないの、即効性があるかどうかはわかりませんが、市として取り組んでいくという姿勢を表せればと思っています。

徳田委員長 : 市P連ではどのようなお話になっていますか。

加藤委員 : 今お話があったように市教委と共催してカルタなどで発信していきましようという話になっています。

徳田委員長 : 確かに家庭学習の時間が少ないとかテレビを見る時間が長いとか、早寝早起き朝ごはんの率が少ないというのは芳しくなく、いろんな方法で改善していく必要があると思います。

古村委員 : 今の生活構造として、友達と話をするのもどうしてもゲームをする必要がありますし、部活をしている子は毎日帰りが7時頃になって勉強があまりできなかったり、やってない子は運動をする機会がまったくなかったりとか、極端になっていますね。カルタにしても、運動をするのは大事だという教育もいいのですが、部活をしてない子が気軽に運動できるようなものがないと、変わらないように思います。地域で何かしても、好きな子しか来ないですよ。その辺りを考えないと解決しないように思います。

三国部長 : 正にその通りです。石狩市の場合、厚田・浜益区は全校単位で少年団に入っているといえる位の参加率があり、運動の面はクリアされていると言えます。問題は花川地域で、小学校には野球やサッカーの少年団があり、そこへ入ると自ずと中学校の部活動につながっていくのですが、少年団に入らなかった子も入りたくなかったわけではなく、保護者が送迎できなかったり、お金がかかるので入れなかったりというケースがあります。そうした子供たちへのゆるい地域遊びの場が提供できればということになるのですが、先ほどお話したセツルメントは、花川南の公園で大学生が行ってしまして、事前に小学校にチラシを配って開くといくことをしています。毎回50人くらいの子どもが集まっているようです。これが全地域でできればいいのしょうけど、寺子屋の中でも勉強だけでなく、放課後遊び的な運動も取り入れたりできたらいいと思います。最近、公園でのボール遊びができない地域がかなりあります。公園は様々な方が利用されるので、小学生がボール遊びすると、乳幼児を連れのお母さんたちからすると危ないということになる。かつてバスケットの3on3用のコートを作ったら、夜中に中高生がうるさいから撤去せよとなったり、住民から離れたところであると変な溜まり場になったりと、難しい面があります。

加藤委員 : 私の子供は八幡小に通っていますが、夏場は一度家に帰ってきて、すぐまた学校の近くにある公園に出かけていきます。家の近くの公園は、老人クラブがパークゴルフで利用しているせいもあると思います。学校の近くまでは距離はありますけど子供たちがたくさん集まってわいわいがやがややっています。好きな学校の先生がいるからなのか、好きな友達がいるからなのかよくわかりませんが一つ言えるのは、公園の付近にも住宅があるのですが、その住民の方たちは子供を受け入れてくれているということです。うるさいとか危ないとか言わないので子供たちが遊びやすい。学校が終わってもまた遊びに行きたくなる学校という感覚なのかもしれません。集団の中でルールとか色々なことを身をもって体験できるでしょうし、すごくいい傾向だなと思っています。

徳田委員長 : 年齢の違う子ども達が、一緒になって遊ぶと言うことは、今はコミュニケーション能力が欠けていると言われていきますから、非常にいいことだと思います。ボール遊びについてですが、学校の校庭を使うことは難しいのですかね。

三国部長 : 花川地域ですと、まず少年団が使っていますので、空いていないです。

碓山委員 : 恵まれている子はどんどん恵まれる状況なのですね。

村中副委員長 : 石狩は、囲碁やソフトボール、色々な文化やスポーツ活動が活発に行われています。そういう面で社会教育が浸透していますが、現実的には二極化していると思います。市民カレッジにしても全道的に誇れるものですが、まったく興味を持たず、参加もしない人がいっぱいいます。子どもも少年団では保障された中で活動していますが、入らない子はまったくくない。目的意識を持って頑張っている子どもがたくさんいれば、何もしない子もたくさんいるのが石狩の課題なのかなと思います。例えばPTAの役員をした人は学校に苦情を言ってこなくなります。私が紅葉山小学校にいたときは、音楽がうるさいとか、南線小学校ではボールが飛んできて危ないから高いフェンスを作れとか言う人がいましたが、一旦学校に関わった人はそういうことをまったく言わなくなります。それだけでも地域の教育力が高まるわけで、何かに参加してもらう、カレッジに来てもらうことで変わっていくことがあると思いますので、そういう機会と呼びかけはすごく大事だと思います。市のソフトボール協会が子ども達に夏休みのソフトボール体験教室を開いたときは、親子で遊びに来たり、市の職員でソフトボールをしている人も来て道具を貸してくれたり指導してくれたりということがありました。ただそれは3、4日のことでしたが、色々な団体がフリーに参加できますよという機会を作ることも大事だと思います。それから、ワンポイントボランティアというアイデア、例えば私たちユネスコでしたら絵画展の作品を700枚以上貼るだけでも2日かかるので、ちょっとお手伝いしてもらおう。そんな各団体の情報が集まっているコーナーでもあれば、自分の都合のつく時間帯だけ気軽に参加できることを見つけられるかもしれません。サークルに入るまではしなくても、何かに協力したい人はいると思います。何かに参加すれば意識も変わりますし。

徳田委員長 : まさしく、そういう方向に進めばいいと思います。大人が何かをお手伝いして子ども達が体を動かす機会を作ってあげることができればいいですね。全道平均に比べて石狩が低い値になるのは何故なのでしょう。周りのサポートが少ないからでしょうか。

伊井委員 : どのくらいの差を重要視するかという問題になりますよね。1、2ポイントの差をどう捉えるのか。低い値は課題になるとは思いますが、運動などは母集団が少ないと年によって偏ることもあります。

岩田委員 : 確かに運動は必要ですが、全員が家に帰ってからスポーツをしなければならなくなると無理があります。私は、家に帰って文化系のことをするとか、運動以外でも集中できるものがあればいいのかなと思います。問題は、家に帰ってテレビとゲームだけという生活になることで、単純にパーセントだけに注目すると、違う議論になってしまうと思います。

徳田委員長 : 今はたまたま運動についての議論になっていますが、早寝早起き朝ごはんとか、ゲームをする時間だとかを総合的に見て、もう少し改善したらいいのではないかという考え方から意見が出ているのだと思います。

- 山根委員 : 先程公園で子どもを受け入れている地域があるというお話をされていましたが、私も昨日、村中副委員長と一緒に参加した研修の講演を聴いて、地域教育力は大人の仲間作りであり、何かに参加することで仲良くなって、それが直接大きな力にはならないけれど、いいことが広がると思うのです。そういうことだったら私もできると思いました。所属している文化協会の中で仲間作りをして人と仲良くなることできるし、そしたら次は地域で、何か隠れている問題を見出せるのではないかと思います。事例として、お年寄りが学校に関わって、先生よりもまず子どもに受け入れられてということが報告されていて、私もできることがあるかもしれないと勇気ももらってきました。
- 徳田委員長 : 学校支援などはそういう仕組みがうまく働いて、大人同士が仲良くなって、それが間接的に子どもたちを元気づけるという部分もあると思いますね。
- 山根委員 : 去年考えてきた寺子屋でも、学力や運動だけでなく、色んな広がりができると感じています。
- 徳田委員長 : たくさんいいお話が出ましたが、それをどう具体的に結びつけるかが問題であらうと思うところです。
- 碓山委員 : ちょうど今、大学3年生が就職時期を迎えていまして、大変な思いをしています。それから言いますと、子供たちの現時点で体力や学力があるとかではなく、社会に出るときの力という目線で見ると必要があると思います。小学校、中学校、高校でついていない力を大学でなんとかしてつけて就職できるようにしたいと思っていますが、本当は大学に入った時点でついていない人はついていないものです。学力だけではなく、人間力みたいなものがなければだめだと思います。公園で遊ばせれば体力がついて元気な子になるというものでもなくて、ヤングエイジとしての時代をどう過ごしたかが大事なので、サービスとして場所を用意してあげて、そこで体験していくだけでは本質的な力はつかないことが多いと思います。学力にしても参加しない子どもをどうするかという問題があるかと思いますが、保護者に、社会に出る力をつけるには小学校、中学校での育て方に関わりますよと呼びかけを行ったうえで具体的なことをしていくといいのかなという気もしています。単に体力をつけるとかだけでは足りないように思うのです。
- 三国部長 : 冒頭申し上げたとおり、このアンケートを出したのは、学力や体力そのものの結果をご議論いただこうと思ったわけではありません。子ども達の生活習慣、日々の暮らしが浮かび上がってくると思ったからです。碓山委員がおっしゃるように、子供たちに本当に必要なことは、家に一人でのいるよりは、人と交わったり、コミュニケーションをとったりすることで、そこに結び付けるには、何らかの活動を他者と行うきっかけが大事だろうと思います。公園のセツルメントや放課後子供教室、そして寺子屋もそうですけれど、学習指導もあるけれど文化的な活動を試みたり、運動を試みたりということになります。市技がソフトボールなものですから、ソフトボール協会の人をお願いして、学校の体育館で夏休みや冬休みに指導をしたら、少年団に入っていない子どもが100人くらい集まりました。そのときだけで上手くなるわけではないのですが、ソフトボールを通じて体を動かす楽しみだとか、友達とわいわいやるだとかを経験するきっかけにはなったと思います。
- 碓山委員 : 周りの理解があって、子供たちの集まる場所があるというお話がありました、

用意しない場所をどう作るかにも力を入れていただきたいなと思いました。札幌の例ですが、子供たちはバスケットボールをしたい、でも周りは煩い。そこで高校生たちと周辺の住民とが話し合いの場を持って、何度かやり取りをして、最初是对立するわけですが、高校生もルールを作って、交渉して勝ち取ったという話がありました。周りを参加させるといいというお話がありましたが、うまく引き込むだけでなく、直接対面させて戦わせたり、交渉する場を作ったりして、大人が理解を示すだけでなく、障害を乗り越える機会があるといいかなと思っています。

加藤委員 : 今は大学という最高学府を出ても就職するのが難しい時代です。自分の息子も春から大学に行くので、こう言っています。体力も学力も大事なツールけれども、一番大事なのは障害を乗り越える能力で、それを伸ばすのは人との関わりをたくさん持つことだと。冒頭の委員長のご挨拶にもありましたけれど、この先近い将来人口が先細りになる中で、たくさんの同世代の子ども達と関わりを持たせることが一番いいことではないかなと思っています。

古村委員 : 子どもころ、秘密基地を作った人はいませんか。うちの子も秘密基地があって、私には教えてくれませんが、そういうゆるい管理が地域でできたらいいように思います。

碓山委員 : 今は場所を用意しないとならないような時代ですが、何かを焚きつければあとは動くような気もするのです。

畑中委員 : 私には、まさに中学生と高校生の女の子がいるので、アンケート結果を聞いて耳が痛くなりました。今の子ども達は、私の頃よりも、5、6年先を行っている感じです。子ども達が買ってくる雑誌を見ると、私は高校生でも読んでいなかったような内容で、することもわたし達の基準に合わせると追いつかないと思っています。化粧にしても、私は高校を卒業するときに、化粧品会社が開いている教室に行って教えてもらいました。今は中学生から出かけるときは化粧するのが常識で、高校生だからちゃんとお化粧したいという言い方をします。普段学校へ行くときは化粧をしません、大人の感覚で見ているとずれてしまうのです。携帯電話やインターネットにしてもそうです。厚田では必要ありませんが、多分、花川の中学生はみんな携帯電話を持っているのではないのでしょうか。基準を自分が子どもだったころからずらして、呼びかけるにしてもそれを逆手に取って振り向かせる必要があると思います。普段接している4、5歳の幼児は変わっていませんが、変わっているのは親の方です。変わった環境の中にいる子どもたちという見方をしないとだめかなと思います。

徳田委員長 : 様々ないいお話が出ていますが、目指す方向はみなさんだいたい同じように思います。何か一つのことですべてが解決するわけではありませんので、具体的な取り組みを色々とできるのが一番かなと思っていますので、またよろしくお願ひしたいと思います。

議事録は上記のとおりであることを認めます。

平成23年3月14日

石狩市社会教育委員の会議委員長 徳田昌生